

基礎分野

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	物理学
単位・時間	1単位 15時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

自然界の物質や現象を理論で裏付ける学問である。複雑な生命原理も高度に発達した医療機器の基本
原理も物理学をはじめとする諸原理に支配されている。

科学的根拠を基に看護を展開するために、物理学の原理・法則を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
物理学的理論・現象・法則が理解できる	15	1 看護と物理、単位、力学的基礎知識 2 ニュートンの運動の法則、摩擦力 3 トルク、テコの原理 4 重心と力学的安定性、運動量 5 ボディメカニクスと体位変換 6 圧力、呼吸の物理とドレナージ 7 流れの原理、点滴の物理 8 血圧測定の物理	講 義	試 験

テキスト ベッドサイドを科学する 看護に生かす物理学 学研

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	生物学
単位・時間	1単位 15時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

生物学は生物のもつ生命の基本単位である細胞に共通する基本構造と機能を学ぶ学問である。

生物体としての人間を理解するために、生体を支配する法則や生命の維持・増進など生物学の基礎を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
生物に共通する基本構造と機能が理解できる	15	1 生命とは 2 細胞—生命の基本単位 3 生殖 4 生体を構成している物質 5 タンパク質の基本的性質 6 遺伝子と発現とタンパク質合成 7 代謝の仕組み—異化	講 義	試 験

テキスト

基礎教養シリーズ まるわかり！基礎生物 南山堂

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	情報科学
単位・時間	1単位 15時間	対象学年・時期	1年（後期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

近年、一般社会においてコンピュータや情報処理端末が幅広く導入されてきており、医療現場においても情報処理技術の修得は不可欠となってきている。

医療・看護領域における高度情報化に対応できるようになるために、情報の活用・情報モラルを学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
情報モラルをふまえた情報の活用方法が理解できる	15	1 コンピュータの基礎知識 2 インターネットの基礎知識 3 情報モラル 1) 肖像権 2) 著作権 3) 個人情報保護 4) 誹謗中傷 4 情報の信頼性・妥当性 5 情報の活用 1) プレゼンテーション	講 義	試 験

テキスト

資料を配布する

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	統計学
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

統計は定量的に評価するために医療に広く活用されている。

現象を理解するために、統計処理をして科学的に理解・評価する方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
統計データの分析・解釈の方法が理解できる	30	1 統計学・概論 2 母集団と標本 3 基礎統計(統計量) 4 度数分布表 5 母集団分布(正規分布 1) 6 Excel を用いた統計(統計量、グラフ) 7 母集団分布(正規分布と 2 項分布) 8 仮設検定の基本的な考え方 9 2 項の母集団における母比率の検定 10 2 群間のちがい(F 検定・t 検定) 11 区間推定 12 Excel を用いた統計 2(分析ツールの利用	講 義	試 験

テキスト

ナースのための統計学 医学書院

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	国語表現法
単位・時間	2単位 30時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

自分で考えたことは表現してはじめて意味をなす。国語表現法は論理的に考えたことを相手に正しく理解してもらうための表現方法を学ぶところである。

自分の考えをわかりやすく伝え、かつ他者の考えを正しく理解するための方法を学ぶ

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
論理的思考に沿って自己の考えを表現できる	30	1. ガイダンス 2. 論理的文章の読み方とまとめ方 3. 要約レポートの準備 4. レポートと質疑応答（1） 5. レポートと質疑応答（2） 6. レポートと質疑応答（3） 7. デイバート 立論の構想 8. デイバートの実践（1） 9. デイバートの実践（2） 10. デイバートの実践（3） 11. 論文作成の準備 12. 論文作成チャートの活用法 13. 論文作成チャートに基づく調査 14. アウトラインの完成及び下書き 15. まとめの試験	講 義	試 験

テキスト

看護の力 岩波新書

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	社会学
単位・時間	2単位 30時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

人間は絶えず社会との相互作用の中にある。

人間を理解するために、人間を取り巻く社会や文化を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
人間を取り巻く社会や文化が理解できる	30	1 社会学の意義 2 ジェンダーの社会学 3 近代的性別役割分業観とケア 4 多様な性と性的マイノリティ 5 社会保障と隣接分野 6 生活保護・社会福祉 7 社会保険 8 「地域共生社会」とは 9 「メディア」とは 10 インタビューとコミュニケーション 11 インタビュー実践	講 義	試 験

テキスト

資料を配布する

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	英語
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

英語は世界の主要言語である。

国際化社会に適応するために、看護実践や生涯学習につなげる。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
コミュニケーションツールとしての英語を活用し、状況に応じて自己の考えを表現できる	30	1 英文法 2 英会話 3 プレゼンテーション	講 義	試 験

テキスト Listening Elements 大学生のための『リスニングエレメント』 南雲堂

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	心理学
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	1年（後期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

人間はこころを持つ。

人間を理解するために、人間の持つこころのメカニズムを学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
人間のもつこころのメカニズムが理解できる	30	1 心理学とは 2 感覚・知覚 3 学習 4 記憶と忘却 5 認知 6 情緒と動機づけ 7 生涯発達 8 パーソナリティ 9 対人関係	講 義	試 験

テキスト 実験心理学 心理学の基礎知識 八千代出版

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	人間関係論
単位・時間	2単位 30時間	対象学年・時期	1年（後期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	臨床心理士として児童養護施設で20年		

設定理由

看護は患者が望ましい状態になるように目的をもってかかわる。その目的を達成するために、目的に合った人間関係を築くための技法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
人間関係を理解し、基本的な理論と技法が理解できる	30	1 人間関係の中の自己と他者 2 対人関係と役割 3 態度と対人行動 4 集団と個人 5 人間関係をつくる理論と技法 1)コミュニケーションとは 2)アサーティブ 3)コーチング 4)カウンセリング 6 患者を支える人間関係	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	哲学
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	2年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

哲学は、さまざまな物事の本質をとらえる学問である。

人間を理解するために、哲学的思考を学び、問い続ける第一歩とする。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
哲学的・倫理的に 思索し、表現でき る	30	1 哲学的な倫理学とは何か 2 帰結主義の倫理学Ⅰ（功利主義の基礎） 3 帰結主義の倫理学Ⅱ（功利主義の応用） 4 義務論の倫理学Ⅰ（義務論の基礎） 5 義務論の倫理学Ⅱ（義務論の応用） 6 徳倫理学Ⅰ（徳倫理学の基礎） 7 徳倫理学Ⅱ（徳倫理学の応用） 8 生命倫理の四原則 9 安楽死の問題Ⅰ 10 安楽死の問題Ⅱ 11 他者との共感・看護とAI 12 遺伝子とエンハンスメントの倫理 13 出生前診断 14 授業のまとめ・グループワーク 15 試験・試験解説・今後の展望	講 義	試 験

テキスト 資料を配布する。

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	LLL 論
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義・演習		
講師名	法人講師 1) 2) 専任教員 3)		
実務経験	1) 医師として附属病院 17 年、他病院 28 年 2) 医師として附属病院 2 年 3) 看護師として附属病院 14 年		

設定理由

本校は基本理念である Life・Light・Love を基盤とした看護師を育成したいと考えている。
自らが命を大切にし、希望を持ち、愛情豊かな人間になるために、自然や文化を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
経験を通して、自らの考えを表現することができる	15	1 基本理念 2 テーマに沿ったグループ学習 3 プレゼンテーション	講 義 演 習	レポート

テキスト 資料を配布する

專門基礎分野

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	人体の構造と機能 I
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師 1) 2)		
実務経験	1) 2)―		

設定理由

人間の正常な構造と機能を学ぶ学問であり、看護のなかで重要な部分を占める日常生活行動の援助を考えるときの土台ともなる。

看護の対象である人間がどのように作られてどのように動き生活を営んでいるか理解するために人体の構造と機能を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
身体の構造と機能について理解できる	30	1 細胞 2 組織 3 骨格・筋系 4 血液	講 義	試 験

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院
 系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	人体の構造と機能Ⅱ
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師 1) 2)		
実務経験	1) 2)―		

設定理由

人間の正常な構造と機能を学ぶ学問であり、看護のなかで重要な部分を占める日常生活行動の援助を考えるときの土台ともなる。

看護の対象である人間がどのように作られてどのように動き生活を営んでいるか理解するために人体の構造と機能を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
身体の構造と機能について理解できる	30	1 呼吸器系 2 循環器系 3 消化器系 4 泌尿器系 5 内分泌系	講 義	試 験

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院
 系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	人体の構造と機能Ⅲ
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師 1) 2) 3)		
実務経験	1) 2) 3)―		

設定理由

人間の正常な構造と機能を学ぶ学問であり、看護のなかで重要な部分を占める日常生活行動の援助を考えるときの土台ともなる。

看護の対象である人間がどのように作られてどのように動き生活を営んでいるか理解するために人体の構造と機能を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
身体の構造と機能について理解できる	30	1 神経系 2 感覚器 3 生殖器 4 免疫系	講 義	試 験

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院
 系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	生化学
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（後期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

生化学は「食べて生きている」生命現象の意味を分子レベルで理解する分野である。対象の生の営みを化学的に理解するために、恒常性の維持が人体を構成する物質により行われているのかを学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
生体内の物質代謝が理解できる	30	1 生化学を学ぶための基礎知識	講 義	試 験
		2 代謝の基礎と酵素・補酵素		
		3 糖質の構造と機能		
		4 糖質代謝		
		5 脂質の構造と機能		
		6 脂質代謝		
		7 タンパク質の構造と機能		
		8 タンパク質代謝		
		9 ポルフィリン代謝と遺物代謝		
		10 遺伝子と核酸		
		11 遺伝子の複製・修復・組換え		
		12 転写		
		13 翻訳と翻訳後修飾		
		14 シグナル伝達		

テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔2〕生化学 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	栄養学
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師		
実務経験	管理栄養士として附属病院 11 年、他施設 6 年		

設定理由

栄養学は食事や食品、その成分である栄養素がどのように生物の中で利用されたり影響しているかを明らかにする。

対象が健康の回復、保持増進をするために、食品成分の健康に対する作用と食事についての支援の方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
人間にとっての栄養の意義と栄養マネジメントが理解できる	30	1 人間栄養学と看護 2 栄養素の種類と働き 3 食物の消化と栄養素の吸収・代謝 4 エネルギー代謝 5 食事と食品 6 栄養ケアマネジメント 7 栄養状態の評価・判定 8 ライフステージと栄養 9 臨床栄養 10 健康づくりと食生活	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔3〕栄養学 医学書院
 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	微生物学
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 外部講師 2)		
実務経験	1) 医師として附属病院 2 年 2) —		

設定理由

微生物学とは、微生物を対象とする生物学の一分野である。病原微生物とは、細菌やウイルスなど毒素や酵素を産生し、ヒトの組織に侵入する能力などがあり、健康なヒトに病気（感染症）を起こす微生物を指す。感染予防、感染症発症時の看護に活かすため、病原微生物の性状・特徴と、それらが引き起こす種々の感染症に関する基本を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
病原微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解できる	30	1 感染症学の基礎と病原微生物の分類 2 病原微生物学と院内感染 3 細菌学 4 ウイルス学 5 真菌学および原虫学 6 微生物学実習	講 義	試 験

テキスト ナースのための微生物学 感染症とその対策の理解のために 南山堂

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	病理学
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師		
実務経験	医師として附属病院 26 年、他病院 11 年		

設定理由

病理学とは、病気の原因とメカニズムを明らかにすることを目的とする学問である。各障害別疾患の理解を深めるため、疾病の原因や発生、形態と機能の変化の原理を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
疾病概念や病理学的変化を理解できる。	15	1 病理学の概念 2 細胞の障害 1) 萎縮、変性、肥大 2) 壊死 3) 創傷と治癒 3 生体の障害 1) 循環障害 2) 炎症 3) 免疫異常、アレルギー 4) 代謝異常 5) 老化と死 6) 腫瘍 7) 感染症	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	病態生理学
単位・時間	2 単位 45 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 専任教員 2)		
実務経験	1) 医師として附属病院 26 年、他病院 11 年 2) 看護師として附属病院 16 年		

設定理由

病態生理学とは、人体の正常な機能が異常をきたし、その破綻による症状、疾病機序や経過を理解するための学問である。

疾病を持った対象に根拠を持った看護を実践するために、対象に起きている症状、疾病機序や経過を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
代表的な症状・症候の出現する機序を理解できる	45	1 病態症候論 1) 呼吸困難 2) ショック 3) 嚥下障害 4) 嘔気・嘔吐 5) 便秘・下痢 6) 浮腫 7) 意識障害 8) 脱水 9) 黄疸	講 義	試 験

テキスト

系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔2〕病態生理 医学書院
ナーシングサプリ イメージできる病態生理学 メディカ出版

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	総合治療論
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7)		
実務経験	1) 医師として附属病院 22 年、他病院 12 年 2) 医師として附属病院 21 年、他病院 24 年 3) 看護師として附属病院 11 年、他病院 6 年 4) 理学療法士として附属病院 17 年 5) 理学療法士として附属病院 11 年 6) 作業療法士として附属病院 13 年 7) 言語聴覚士として附属病院 9 年		

設定理由

対象への看護を実践するために、社会の中の医療を知り、代表的な治療法と治療が及ぼす生体への影響を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
社会の中の医療の現状が理解できる 代表的な治療法と生体への影響を理解できる	30	1 医療と社会 2 手術療法 1) 麻酔の知識 2) 手術療法の目的と意義 3) 術前検査 4) 術後の管理と術後合併症の管理 5) 外科的侵襲と生態の反応 3 放射線療法と画像診断 4 一次救命処置 5 リハビリテーション 1)理学療法 2)作業療法 3)言語リハビリテーション	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 医学書院
 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度① 医療概論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	薬理学
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

薬理学は、薬物がどのような作用を生体に及ぼし効果を表すのかを明らかにする。薬物療法を実施するために、必要な薬剤の基礎知識を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について理解できる	30	1 薬理学総論 2 末梢神経系作用薬 3 中枢神経系作用薬 4 呼吸器系作用薬 5 抗炎症薬 6 循環器系作用薬 7 消化器系作用薬 8 ホルモン系・生殖器系作用薬 9 感染症薬 10 抗悪性腫瘍薬 11 漢方薬	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	呼吸器疾患の理解
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師		
実務経験	医師として附属病院 5 年、他病院 18 年		

設定理由

呼吸器疾患は、上気道、気管・気管支、肺に生じる疾患である。呼吸機能が障害された対象への看護を実践するために、病態と検査、治療を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
呼吸器疾患の病態、検査、治療が理解できる	15	<ol style="list-style-type: none"> 1 呼吸器疾患の病態と診断 <ol style="list-style-type: none"> 1) 炎症性疾患(気管支炎,肺炎,間質性肺炎,胸膜炎) 2) 気管支喘息 3) 慢性閉塞性肺疾患 4) 肺循環障害(肺高血圧,肺塞栓症) 5) 肺結核 6) 気胸 7) 腫瘍(肺癌,中皮腫) 2 呼吸器疾患の検査 <ol style="list-style-type: none"> 1) 動脈血液ガス分析 2) 呼吸機能検査 3) 気管支鏡検査 4) 胸腔穿刺 3 呼吸器疾患の治療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 酸素療法 2) 非侵襲的陽圧換気 3) 侵襲的陽圧換気 4) 胸腔ドレナージ 5) 薬物療法 	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕 呼吸器 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	循環器疾患の理解
単位・時間	1単位 15時間	対象学年・時期	2年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師		
実務経験	医師として附属病院 16年、他病院 22年		

設定理由

循環器疾患は、血液を全身に循環させる臓器である心臓や血管などに生じる疾患である。循環機能が障害された対象への看護を実践するために、病態と検査、治療を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
循環器疾患の病態、検査、治療が理解できる	15	1 心臓の疾患の病態と診断 1) 虚血性心疾患 2) 心筋症 3) 心不全 4) 心タンポナーデ 5) 不整脈 6) 炎症性疾患 7) 弁膜症 2 血管系の疾患の病態と診断 1) 大動脈瘤,大動脈解離 2) 閉塞性動脈硬化症 3) 挫滅症候群 4) 下肢静脈瘤,深部静脈血栓症 3 血圧異常の病態と診断 4 ショックの病態と診断 5 循環器疾患の検査 1)心血管超音波 2)心臓カテーテル 6 循環器疾患の治療 1) 経皮的冠動脈形成術<PCI> 2) 冠動脈バイパス術<CABG> 3) 弁置換術・弁形成術 4) 大動脈内バルーンパンピング<IABP> 5) ペースメーカー 6) 植込み型除細動器 7) 血栓溶解療法・血栓除去術	講 義	試 験

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	消化器疾患の理解
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2)		
実務経験	1) 医師として他病院 6 年 2) 医師として他病院 3 年		

設定理由

消化器疾患は、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸をはじめとする消化管と肝臓、胆のう、膵臓に生じる疾患である。

消化・栄養機能が障害された対象への看護を実践するために、病態と検査、治療を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
消化器疾患の病態、検査、治療が理解できる	15	1 上部消化管の疾患の病態と診断 1) 炎症性疾患 2) 潰瘍性疾患 3) 腫瘍 2 下部消化管の疾患の病態と診断 1) 炎症性疾患 2) イレウス 3) 腫瘍 4) 排便障害 3 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の病態と診断 1) 炎症性疾患 2) 肝硬変 3) 腫瘍 4) 脂肪肝,アルコール性肝炎 5) 胆石症 4 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断 1) 腹膜炎 5 消化器疾患の検査 1) 上部消化管内視鏡 2) 大腸内視鏡 3) 内視鏡的逆行性胆管膵管造影 4) 消化管造影 5) 腹部超音波 6) 肝生検 6 消化器疾患の治療 1) 胆道・胆嚢ドレナージ 2) 経腸栄養法 3) 経静脈栄養法 4) 肝庇護療法 5) インターフェロン療法 6) 食道静脈瘤内視鏡治療 7) 肝動脈塞栓術	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕 消化器 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	腎・泌尿器疾患の理解
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2)		
実務経験	1) 医師として附属病院 11 年、他病院 18 年 2) 医師として附属病院 48 年、他病院 7 年		

設定理由

腎・泌尿器疾患は、腎臓、尿管、膀胱、尿道、男性生殖器に生じる疾患である。排泄機能が障害された対象への看護を実践するために、病態と検査、治療を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
腎・泌尿器疾患の病態、検査、治療が理解できる	15	1 腎・泌尿器疾患の病態と診断 1) 腎不全 2) 炎症性疾患(腎盂腎炎、膀胱炎) 3) 腫瘍(腎癌、尿管癌、膀胱癌、前立腺癌) 4) 腎・尿路結石 5) 排尿障害 6) 水腎症 2 腎・泌尿器疾患の検査 1) 尿流動態検査 2) 残尿測定 3) 膀胱鏡 4) 静脈性尿路造影 5) 腎生検 3 腎・泌尿器疾患の治療 1) 血液透析 2) 腹膜透析〈CAPD〉 3) 腎移植 4) 体外衝撃波結石破砕術 5) 尿路変更術 6) 前立腺切除術 7) 薬物療法	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	内分泌・代謝疾患の理解
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師		
実務経験	医師として附属病院 4 年、他病院 30 年		

設定理由

内分泌疾患は、ホルモンの分泌異常により生じる疾患であり、代謝疾患は物質代謝の障害により生じる疾患である。

内分泌・代謝機能が障害された対象への看護を実践するために、病態と検査、治療を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
内分泌・代謝疾患の病態、検査、治療が理解できる	15	<ol style="list-style-type: none"> 1 内分泌系の疾患の病態と診断 <ol style="list-style-type: none"> 1) 間脳・下垂体疾患 2) 甲状腺疾患 3) 副甲状腺〈上皮小体〉疾患 4) 副腎皮質・髄質疾患 2 代謝異常の疾患の病態と診断 <ol style="list-style-type: none"> 1) メタボリックシンドローム、肥満症 2) 糖尿病 3) 脂質異常症 4) 高尿酸血症、痛風 5) ビタミン欠乏症 3 体液調節の疾患の病態と診断 <ol style="list-style-type: none"> 1) 水・電解質の異常 2) 酸塩基平衡の異常 4 内分泌・代謝疾患の検査 <ol style="list-style-type: none"> 1) ホルモン血中・尿中濃度測定 2) ホルモン負荷試験 3) 糖負荷試験<OGTT> 4) 血糖自己測定<SMBG> 5 内分泌・代謝疾患の治療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬物療法 2) 食事療法 3) 運動療法 	講 義	試 験

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	免疫・血液造血器・ 眼疾患の理解
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3)		
実務経験	1) 医師として附属病院 27 年、他病院 19 年 2) 医師として附属病院 16 年、他病院 22 年 3) 医師として附属病院 24 年、他病院 6 年		

設定理由

免疫疾患は、生体内の免疫系の機能の障害により生じる疾患である。血液造血器疾患は、血液と造血器官の障害により生じる疾患である。眼疾患は、視覚器により生じる疾患である。

免疫機能と血液造血器・視覚の機能が障害された対象への看護を実践するために、病態と検査、治療を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
免疫疾患の病態、 検査、治療が理解 できる 血液・造血器疾患 の病態、検査、治療 が理解できる 眼疾患の病態、検 査、治療が理解で きる	15	1 自己免疫疾患の病態と診断 1) 全身性エリテマトーデス<SLE> 2) 関節リウマチ 2 アレルギー性疾患の病態と診断 3 免疫低下に関連する疾患の病態と診断 1) 敗血症 2) ヒト免疫不全ウイルス感染症 4 免疫機能の障害の治療 1) 薬物療法 2) 減感作療法 5 血液・造血器の疾患の病態と診断・治療 1) 貧血 2) 出血性疾患 3) 造血器腫瘍 6 眼疾患の病態と診断・治療 1) 結膜疾患 2) 網膜、硝子体疾患 3) 水晶体疾患 4) 緑内障	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔4〕 血液・造血器 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔11〕 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔13〕 眼 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	外科療法・運動器疾患の理解
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3) 4) 5) 6)		
実務経験	1) 医師として附属病院 13 年、他病院 28 年 2) 医師として附属病院 22 年、他病院 12 年 3) 医師として附属病院 12 年、他病院 16 年 4) 医師として附属病院 2 年、他病院 8 年 5) 医師として他病院 14 年 6) 医師として附属病院 20 年、他病院 8 年		

設定理由

個々の疾患の治療法には内科的治療と外科的治療がある。外科的治療を受ける対象に看護を実践するため、外科的治療について必要な知識を学ぶ。

運動器疾患とは、筋肉・関節・骨・腱・靭帯・神経などの組織や器官に生じる疾患である。運動機能が障害された対象への看護を実践するために、病態と検査、治療を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
外科的治療が理解できる 運動器疾患の病態、検査、治療が理解できる	15	1 外科療法 1) 食道切除術 2) 胃切除術 3) 大腸切除術・人工肛門造設術 4) 膝切除術 5) 腹腔鏡視下手術 6) 肝切除術 7) 甲状腺切除術 8) 乳癌手術 2 運動器疾患の病態と診断 1) 骨折,脱臼,捻挫 2) 骨粗鬆症 3) 腫瘍（骨肉腫） 4) 変形性関節症 5) 脊椎、脊髄疾患 3 運動器疾患の治療 1) ギプス固定 2) 牽引法 3) 手術療法	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕 運動器 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	脳・神経疾患の理解
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2)		
実務経験	1) 医師として附属病院 24 年、他病院 12 年 2) 医師として附属病院 2 年、他病院 19 年		

設定理由

脳・神経疾患は、脳・脊髄・末梢神経などに生じる疾患である。脳神経の機能が障害された対象への看護を実践するために、病態と検査、治療を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
脳・神経疾患の病態、検査、治療が理解できる	15	1 中枢神経系の疾患の病態と診断 1) 脳血管障害（脳内出血,くも膜下出血,脳梗塞, もやもや病） 2) 変性疾患(パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症) 3) 脱髄疾患(多発性硬化症) 4) 認知症(アルツハイマー病,血管性認知症、レビー小体型認知症) 5) 感染症(脳炎,髄膜炎) 6) 頭部外傷 7) 機能的疾患(てんかん) 8) 腫瘍(脳腫瘍) 2 末梢神経系の疾患の病態と診断 1) ギランバレー症候群 2) 圧迫性神経障害 3) 顔面神経麻痺（ベル麻痺） 3 脳・神経疾患の検査 1) 脳波検査 2) 髄液検査 3) 脳血管造影 4 脳・神経疾患の治療 1) 手術療法 2) 薬物療法	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕 脳・神経 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	女性生殖器・感覚器・皮膚疾患の理解
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8)		
実務経験	1) 医師として附属病院 15 年、他病院 7 年 2) 医師として附属病院 10 年、他病院 10 年 3) 医師として附属病院 4 年、他病院 10 年 4) 医師として附属病院 2 年、他病院 9 年 5) 医師として附属病院 10 年、他病院 18 年 6) 医師として附属病院 5 年、他病院 13 年 7) 医師として附属病院 5 年、他病院 14 年 8) 医師として他病院 12 年		

設定理由

女性生殖器疾患は、卵巣・卵管・子宮・膣に生じる疾患、感覚器疾患の理解は、耳、鼻、咽頭、喉頭、口腔、皮膚に生じる疾患である。

女性生殖器の機能、感覚器が障害された対象への看護を実践するために、病態と検査、治療を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
女性生殖器疾患の病態、検査、治療が理解できる 感覚器の疾患の病態、検査、治療が理解できる	15	1 女性生殖器の疾患の病態と診断 1) 子宮疾患 2) 卵巣疾患 3) 乳房疾患（乳腺炎、乳腺症） 4) 女性のライフサイクルの変化（月経異常、更年期障害） 5) 感染症 2 女性生殖器の治療 1) 手術療法 2) 薬物療法 3 感覚器系の疾患の病態と診断、治療 1) 耳の疾患（難聴、メニエール病） 2) 鼻の疾患 3) 咽頭・喉頭・口腔の疾患 4) 皮膚疾患 4 皮膚疾患の病態と診断、治療	講 義	試 験

テキスト	系統看護学講座	専門分野	成人看護学〔9〕	女性生殖器	医学書院
	系統看護学講座	専門分野	成人看護学〔12〕	皮膚	医学書院
	系統看護学講座	専門分野	成人看護学〔14〕	耳鼻咽喉	医学書院
	系統看護学講座	専門分野	成人看護学〔15〕	歯・口腔	医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	精神疾患の理解
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2)		
実務経験	1) 医師として附属病院 30 年、他病院 8 年 2) 医師として附属病院 1 年、他病院 7 年		

設定理由

精神疾患は、脳の機能的な障害や器質的な問題によって生じる疾患である。精神障がいのある対象への看護を実践するために、病態と検査、治療を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
精神疾患の病態、検査、治療が理解できる	15	1 脳の仕組みと精神機能 1) 脳の部位と精神機能 2) 神経伝達物質と精神機能・薬理作用 3) ストレス脆弱性仮説 4) 脳と免疫機能 5) 睡眠障害と概日リズム 2 精神疾患の診断と検査 1) 症状性を含む器質性精神障害 2) 精神作用物質使用による精神・行動の障害 3) 統合失調症 4) 気分〈感情〉障害 5) 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害 6) 生理的障害および身体的要因に関連した行動性症候群 7) パーソナリティ障害 8) 心身症 3 精神疾患の治療 1) 薬物療法 2) 個人精神療法 3) 集団精神療法、集団力 4) 心理教育的アプローチ 5) 認知行動療法 6) 生活技能訓練〈SST〉 7) 電気けいれん療法	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔2〕 精神看護の展開 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	公衆衛生学
単位・時間	2単位 30時間	対象学年・時期	1年（後期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

公衆衛生学とは、集団を対象とし、社会の人々の健康の保持増進や健康に関する諸問題を取り扱い地域、国、地球レベルの健康への脅威に対処するための組織的な保健・衛生活動を実践する科学・技術である。広い視野で看護を捉えるために公衆衛生の基本、保健活動の基盤となる法や施策及び健康の保持増進と脅威への組織的な取り組みを学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
自然環境・社会環境から影響を受ける人々の健康と関係する様々な政策や施策が理解できる	30	1 公衆衛生の理解 2 人口と公衆衛生 3 環境と公衆衛生 4 食と公衆衛生 5 国民の健康と保健統計 6 疫学 7 公衆衛生と健康教育 8 公衆衛生活動の実際 1) 母子保健 2) 成人保健 3) 高齢者保健 4) 学校保健 5) 災害保健 6) 国際保健 7) 地域保健 8) 精神保健 9) 障害者保健 10) 難病保健 11) 歯科保健 12) 産業保健	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生 医学書院
 公衆衛生がみえる メディックメディア

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	看護関係法規
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（後期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 21 年		

設定理由

看護関係法規は人々の健康を守るための根拠となる法令を学ぶところである。

看護職としての根拠や判断をするために、従事者に関する法や施策及びサービス提供体制を取り扱う。

看護師の責任を知るために法の基礎知識を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
看護関係法規について理解できる	15	1 法の概念 2 医療法 3 看護法 1) 保健師助産師看護師法 2) 看護師の人材確保の促進に関する法律 4 労働法 1) 労働基準法 2) 労働安全衛生法	講 義	試 験

テキスト

系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔4〕 看護関係法令 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	社会福祉論
単位・時間	2単位 30時間	対象学年・時期	2年（後期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	社会福祉士として介護老人保健施設 8年		

設定理由

社会福祉論とは、全国民を対象に一般的な生活問題の解決を目指す取り組みであり、人々の福祉の増進と権利の擁護、およびそのための援助の方法、技術、また行政政策、福祉を考えた基盤と構造を考える学問である。人々の健康を支援するために、社会保障制度を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
社会保障制度について理解できる	30	1 社会保障制度と社会福祉 2 社会保障 3 医療保障 4 介護保障 5 所得保障 6 公的扶助 7 社会福祉の分野とサービス 8 社会福祉実践と医療・看護	講 義	試 験

テキスト

系統看護学講座 専門基礎分野 生活支援と社会保障制度〔3〕社会保障・社会福祉 医学書院

専門基礎分野

分野科目名	専門基礎分野	科目名	チーム医療の理解
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 9 年		

設定理由

チーム医療を実践するためには専門職の協働・連携が必要となる。

多職種の協働する力を養うために、専門職の職種と役割を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
チーム医療を担う 専門職の職種と役 割が理解できる	15	1 医療を担う専門職 1) 医師 2) 看護師 3) 薬剤師 4) 栄養士 5) 作業療法士 6) 理学療法士 7) 言語聴覚士 8) 社会福祉士 2 チーム医療の機能 3 チーム医療の課題	講 義	レポート

テキスト 資料を配布する

専門分野

基礎看護学

専門分野 基礎看護学

分野科目名	専門分野 基礎看護学	科目名	看護学概論
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 21年		

設定理由

これから学ぶ看護のイントロダクションである。また、看護とは何か、看護師とはどのような職業かを知るところである。看護学の全体像をとらえるために看護の基盤を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
多角的視点で看護を述べることができる	30	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の定義 2) 看護の目的 3) 看護の対象 4) 看護の場 5) 看護の機能 2 看護のメタパラダイム <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護 2) 人間 3) 環境 4) 健康 5) 生活 3 看護倫理の基本的な考え方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護/医療の倫理とその歴史 2) 看護における倫理的判断 3) ケアリングと倫理 4) 臨床現場で出会う看護倫理 4 看護制度や看護政策、看護管理 5 保健・医療・福祉と継続看護 6 医療安全 	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔1〕看護学概論 医学書院
よくわかる 看護者の倫理綱領 照林社

専門分野 基礎看護学

分野科目名	専門分野 基礎看護学	科目名	看護ケアマネジメント
単位・時間	1単位 15時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 14年		

設定理由

看護ケアのマネジメントとは、対象がケアを受けるまでのすべてをマネジメントすることである。看護実践のために看護のケアのマネジメントにおいて基本となる看護職の機能、対象者の権利の尊重、安全管理、チーム医療を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
看護ケアを実践するために必要なマネジメントの要素を述べることができる	15	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護ケアの提供者としての役割 2) 提供されるケアをマネジメントする役割 2 患者の権利の尊重 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の権利 2) インフォームドコンセント 3) 意思決定の支援 3 安全管理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 安全管理のしくみ 2) 医療事故対策 4 チーム医療 <ol style="list-style-type: none"> 1) チーム医療とは 2) チームに必要な機能 3) 看護職の責任と役割 4) 多職種との連携・協働 5 看護業務の実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護業務 2) 情報の活用 3) 日常業務のマネジメント 	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔1〕看護学概論 医学書院

専門分野 基礎看護学

分野科目名	専門分野 基礎看護学	科目名	看護理論
単位・時間	1単位 15時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 14年		

設定理由

看護理論は看護を实践するうえで、科学的根拠としての礎になっている。

さまざまな理論を有効に活用し、看護に活かすために考え方を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
看護実践において理論を活用し、看護を考えることができる	15	1 看護理論家とその理論 事例をもとに理論を理解する 1) ナイチンゲール 2) ヘンダーソン 3) オレム 4) ロイ 5) ベナー 6) ゴードン 2 中範囲理論	講 義	試 験

テキスト ナイチンゲールの「看護覚え書」 西東社

看護の基本となるもの 日本看護協会出版会

専門分野 基礎看護学

分野科目名	専門分野 基礎看護学	科目名	看護過程
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	1 年（後期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 14 年		

設定理由

看護過程は看護の目標を成し遂げるための一連の行為であり、対象の課題や問題を解決するための看護実践方法の一つである。

人々の健康上の問題を見極め、最適かつ個別的な看護を提供するために、問題解決の思考のプロセスを学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
看護過程の展開方法が理解できる	15	1 看護過程の定義 2 基盤となる考え方 3 看護過程の構成要素 1) アセスメント 2) 看護上の問題の明確化 3) 看護計画の立案 4) 実践 5) 評価 4 事例展開	講 義	レポート

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「2」 基礎看護学技術 I 医学書院
 看護がみえる VOL.4 看護過程の展開 メディックメディア

専門分野 基礎看護学

分野科目名	専門分野 基礎看護学	科目名	看護研究
単位・時間	1単位 15時間	対象学年・時期	2年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 12年		

設定理由

看護研究の究極の目的は看護の質の向上である。看護実践のためには、経験や直感に基づいた看護は必要不可欠であり、さらに科学的根拠に基づいた看護が必要である。その科学的根拠や看護を探究する方法のひとつが看護研究である。

科学的根拠に基づいた看護を提供するため、また看護を探究する力を身につけるために、研究方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
看護研究の方法を理解し、論文をまとめることできる	15	1 看護における研究の意義と必要性 2 研究方法 3 倫理的配慮 4 文献検索 5 看護研究のプロセス 1) 問題の抽出、テーマの決定 2) 研究計画書の作成 3) 論文のまとめ方 4) プレゼンテーションの方法 6 プレゼンテーション	講 義	レポート

テキスト ひとりで学べる看護研究 照林社

専門分野 基礎看護学

分野科目名	専門分野 基礎看護学	科目名	看護技術の基礎
単位・時間	1単位 15時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 13年		

設定理由

看護技術は、看護の対象となる人々の安全・安楽を保証しながら、看護の専門的知識に基づいて提供される技である。

看護技術を適切に実践するための必要な要素を学ぶ

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
看護技術を適切に実践するための特徴、共通要素を述べることができる	15	1 看護技術の概念 2 看護技術とはなにか 3 看護技術の特徴 1) 全人的なかかわり 2) 人間関係を基盤 3) 状況変化の対応 4) 対象者の権利擁護 5) 倫理的判断 4 看護技術の範囲 1) 療養上の世話 2) 診療の補助 5 看護技術を適切に実践するための要素 1) 看護基本技術を支える態度や行為の構成要素	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「2」 基礎看護学技術 I 医学書院

専門分野 基礎看護学

分野科目名	専門分野 基礎看護学	科目名	感染予防の技術
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 13 年		

設定理由

感染予防の技術は、対象と看護師自身を感染から守る技術である。

対象を感染から守るために、アセスメントの視点と援助方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
感染予防の技術が理解でき、実施できる	30	1 感染防止の基礎知識 1) 感染成立の条件 2) 感染防止の意義 2 標準予防策 3 感染経路別予防策 1) 空気感染 2) 飛沫感染 3) 接触感染 4 感染性廃棄物の取り扱い 5 洗浄・消毒・滅菌 6 無菌操作 7 カテーテル関連感染予防	講 義 演 習	試 験 実技試験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「2」 基礎看護学技術 I 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 基礎看護学

分野科目名	専門分野 基礎看護学	科目名	ヘルスアセスメント
単位・時間	2単位 45時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 16年		

設定理由

ヘルスアセスメントは対象を全人的・多角的にアセスメントする技術である。

ヘルスアセスメントで得られた結果を実際のケアに結び付けていくために、ヘルスアセスメントの技術を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
ヘルスアセスメントの技術を理解し、実施してアセスメントできる	45	1 ヘルスアセスメントの意義 2 フィジカルアセスメントの意義 3 フィジカルイグザミネーション 1) 視診 2) 触診 3) 聴診 4) 打診 5) 問診 4 全身の診察 1) 全体印象の把握 2) バイタルサイン 3) 身体計測 5 系統別のフィジカルアセスメント 1) 呼吸器系のフィジカルアセスメント 2) 循環器系のフィジカルアセスメント 3) 腹部のフィジカルアセスメント 4) 感覚器のフィジカルアセスメント 5) 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 6) 神経系のフィジカルアセスメント 6 心理的アセスメント 7 社会的アセスメント 8 検体検査・生体情報 1) 血液検査 2) 尿検査 3) 便検査 4) 喀痰検査 5) 超音波検査 6) 心電図検査	講 義 演 習	試 験 実技試験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「2」 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「3」 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 基礎看護学

分野科目名	専門分野 基礎看護学	科目名	環境を整える技術
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 13 年		

設定理由

環境を整える技術は、環境の意義を理解し、対象に必要な療養の場を整える技術である。
対象に応じた療養環境を整えるために、アセスメントの視点と援助方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
環境調整の意義と援助方法を理解し実施できる	15	1 環境を整える意義 2 療養環境のアセスメント 3 環境を整える技術 4 対象の状況に応じた環境調整	講 義 演 習	試 験 実技試験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「3」 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 基礎看護学

分野科目名	専門分野 基礎看護学	科目名	食を整える技術
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 13 年		

設定理由

食を整える技術は、対象の状態に合わせた食事の援助技術である。
 対象に応じて食を整えるために、アセスメントの視点と援助方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
食の意義と食を整える援助方法を理解し、実施できる	15	1 食の意義 2 食のアセスメント 3 食を整える技術 1) 経口摂取の援助 2) 非経口的栄養摂取の援助 (1) 経管・経腸栄養法 (2) 中心静脈栄養法	講 義 演 習	試 験 実技試験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「3」 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 基礎看護学

分野科目名	専門分野 基礎看護学	科目名	排泄を整える技術
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 13年		

設定理由

排泄を整える技術は、対象の状態に応じた方法で排泄するための援助技術である。

対象の状況に応じた排泄の援助をするために、アセスメントの視点と援助方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
排泄の意義と排泄を整える援助方法を理解し実施できる	30	1 排泄の意義 2 排泄のアセスメント 3 排泄を整える援助 1) トイレ・ポータブルトイレ 2) 尿器・便器 3) 導尿（一時的・持続的） 4) 浣腸 5) 摘便 6) おむつ	講 義 演 習	試 験 実技試験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「3」 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 基礎看護学

分野科目名	専門分野 基礎看護学	科目名	活動と休息を整える・安楽確保の技術
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 14 年		

設定理由

活動と休息を整える技術は、対象の状態に応じた方法で活動と休息を調整する技術である。

安楽確保の技術は、対象の状態に応じた方法で安楽を確保する技術である。

対象の状況に応じて活動と休息、安楽を保つために、アセスメントの視点と援助方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
活動と休息、安楽確保の意義と援助方法を理解し、実施できる	30	1 活動と休息の意義 2 活動と休息のアセスメント 3 活動を促す援助 1) ボディメカニクス 2) 体位変換 3) 歩行 4) 移乗・移送（車いす・ストレッチャー） 4 安楽確保の意義 5 安楽のアセスメント 6 安楽の援助 1) 安楽な姿勢・体位の保持 2) マッサージ	講 義 演 習	試 験 実技試験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「3」 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 基礎看護学

分野科目名	専門分野 基礎看護学	科目名	清潔に整える技術
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 13年		

設定理由

清潔に整える技術は、対象の状態に応じた方法で清潔を保つように調整する技術である。
対象の状況に応じて清潔を保つために、アセスメントの視点と援助方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
清潔の意義と清潔を整える援助方法を理解し、実施できる	30	1 清潔・衣生活の意義 2 清潔・衣生活のアセスメント 3 清潔行動・衣生活の援助 1) 入浴 2) 全身清拭 3) 部分浴 4) 陰部洗浄 5) 洗髪 6) 口腔ケア 7) 寝衣交換	講 義 演 習	試 験 実技試験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「3」 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 基礎看護学

分野科目名	専門分野 基礎看護学	科目名	呼吸・循環を整える技術
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 14 年		

設定理由

呼吸・循環を整える技術は、対象の状態に応じた方法で呼吸・循環を整える技術である。
対象の状況に応じて呼吸・循環を保つために、アセスメントの視点と援助方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
呼吸・循環を整える援助方法を理解し、実施できる	30	1 呼吸の意義 2 呼吸のアセスメント 3 呼吸を整える技術 1) 酸素吸入療法 2) 一時的吸引 3) 体位ドレナージ 4) 咳嗽介助、ハフイング 5) 吸入療法 4 循環の意義 5 循環のアセスメント 6 循環を整える技術 1) 温罨法 2) 冷罨法 3) 末梢循環促進ケア	講 義 演 習	試 験 実技試験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「3」 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 基礎看護学

分野科目名	専門分野 基礎看護学	科目名	創傷管理・与薬の技術
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 16 年		

設定理由

創傷管理技術は褥瘡を含む創傷の発生機序と治癒過程を理解し創傷への様々な対応を実践する技術である。与薬の技術は薬物療法にかかわる事故防止と薬物療法を受ける対象に展開する技術である。対象の状況に応じて安全で効果的な創傷管理と与薬をするために、アセスメントの視点と援助方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
創傷管理と与薬の援助方法が理解できる	30	1 創傷管理の意義 2 創傷のアセスメント 3 創傷処置 4 褥瘡予防 5 与薬における看護師の役割 6 薬物療法の基本 7 薬物の種類と取り扱い方法 8 与薬における医療過誤と安全管理 9 与薬の方法と効果の観察 1) 経口与薬 2) 吸入 3) 点眼 4) 点鼻 5) 経皮的与薬 6) 直腸内与薬 7) 注射 10 輸血管理	講 義 演 習	試 験 実技試験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「3」 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 基礎看護学

分野科目名	専門分野 基礎看護学	科目名	病期に応じた看護
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 16 年		

設定理由

病期とは、病気の進行をその症状によって区分した期間である。それぞれの病期にある対象に応じた看護を学ぶところである。

状態に応じた看護を展開するために、各病期にある対象の特徴と援助方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
各病期にある患者の特徴と援助方法が理解できる	15	1 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 2 慢性病と共存を支える看護 3 障害がある人の生活とリハビリテーション 4 人生の最期のときを支える看護	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「4」 臨床看護総論 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学「1」 成人看護学総論 医学書院

専門分野

地域・在宅看護論

専門分野 地域・在宅看護論

分野科目名	専門分野 地域・在宅看護論	科目名	地域と暮らし
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 11年		

設定理由

地域・在宅という環境で人々がどのように暮らしているか知るところである。

健康や暮らしを支援するために、地域にいる対象と生活の基盤である「地域」と「暮らし」について学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解できる	30	1 暮らすとは 2 生活を支える人々 3 暮らしている地域を調べる 4 暮らしている人々を知る 5 地域の生活を知る 6 地域の環境が与える影響を考える 7 フィールドワークまとめ・発表 8 「地域」と「暮らし」を語る	講 義 演 習	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論「1」 地域・在宅看護の基盤 医学書院

専門分野 地域・在宅看護論

分野科目名	専門分野 地域・在宅看護論	科目名	地域と人の暮らしを支える基盤
単位・時間	2単位 30時間	対象学年・時期	2年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 11年		

設定理由

地域・在宅の人々が、疾病や障害を持っても生活の質を維持し、可能な限り住みなれた地域で、その人らしい暮らしを続けられるようにするための考え方・システムを学ぶところである。

対象となる人々とその家族を支えるために、在宅看護の目的・基本的な理念や関連する概要を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解する	30	1 地域・在宅看護の対象 2 健康と暮らしを支える看護 3 看護が提供される多様な場 4 地域・在宅看護論に関連する法と制度と施策 5 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント 6 地域・在宅看護を語る	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論「1」 地域・在宅看護の基盤 医学書院

専門分野 地域・在宅看護論

分野科目名	専門分野 地域・在宅看護論	科目名	地域における健康増進への支援
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	2 年（後期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 11 年		

設定理由

地域・在宅の対象が、自らの健康を保持増進できるようなアプローチの方法を学ぶところである。
対象が自ら健康を管理し、支援するための方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
地域で生活する人々の健康の保持増進・疾病の予防のための看護が展開できる	30	1 健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護 1) 自宅に住む独居高齢者の事例展開 ケアマネジメント 日常生活における安全管理 2) 地域のニーズから支援を考える	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論「1」 地域・在宅看護の基盤 医学書院
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論「2」 地域・在宅看護の**実践** 医学書院

専門分野 地域・在宅看護論

分野科目名	専門分野 地域・在宅看護論	科目名	在宅における療養者の支援
単位・時間	2単位 30時間	対象学年・時期	2年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3)		
実務経験	1) 看護師として附属病院 19年 2) 看護師として附属病院 23年 3) 看護師として附属病院 7年、他病院 11年		

設定理由

地域・在宅にいるさまざまな対象者に対して、療養者の生命活動、生活活動、社会活動を可能にする働きかけを学ぶところである。

対象や環境に合わせた療養生活を支えるために、在宅看護実践の基本的技術を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
地域で生活している療養者に必要な看護を理解できる	30	1 訪問看護制度における対象者 2 地域で療養生活を送る人と家族のアセスメント 3 在宅療養生活を支える看護（食事・排泄・清潔・移動） 4 日常生活における安全管理 5 暮らしの場で行われている治療と看護 6 介入時期と看護の継続性 1) 誤嚥性肺炎に罹患した在宅療養者の看護 急性期にある超高齢者の事例展開 2) 脊髄損傷の在宅療養者の看護 慢性期にある療養者の事例展開 3) 在宅で看取りをする療養者の看護 終末期にある療養者の事例展開 4) 壮年期の ALS の療養者の看護 医療依存の高い在宅療養者の事例展開	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論「2」 地域・在宅看護の実践 医学書院

専門分野

成人看護学

専門分野 成人看護学

分野科目名	専門分野 成人看護学	科目名	おとなの理解
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 16年		

設定理由

変動する社会やおとなを取り巻く環境を最新のデータに基づき、成人期にある対象の特徴を捉えるところである。

成人期の特徴から様々な健康問題に対応するために、基本的な考え方や方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
成人期にある対象の特徴と生活と健康課題が理解できる	30	1 ライフサイクルからの成人期 1) 成人期の定義 2) 発達課題 3) 各発達段階の特徴（青年期、壮年期、中年期、向老期） 2 成人期の特徴 3 成人の暮らし 1) 生活様式 2) 家族形態と機能と家族支援 3) 社会状況の変化 4 医療の場における倫理的課題 5 倫理的判断の基盤となるもの 6 倫理的課題へのアプローチ 7 成人期の健康問題 1) 生活主観に関連する健康問題 2) 職業に関連する健康問題 3) ストレスに関連する健康問題	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学「1」 成人看護学総論 医学書院
 看護がみえる 対象の理解 I メディックメディア

専門分野 成人看護学

分野科目名	専門分野 成人看護学	科目名	呼吸器疾患を持つ成人への看護
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師		
実務経験	看護師として附属病院 10 年		

設定理由

成人期における呼吸器疾患のある対象への看護をするために、症状の緩和と生活を整える看護の方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
呼吸器疾患をもつ患者の看護を展開できる	15	1 気管支喘息 2 炎症性疾患(肺炎、気管支炎、胸膜炎) 3 慢性閉塞性肺疾患<COPD> 4 肺癌 上記疾患の 1) 主な症状に対する看護 2) 検査・処置を受ける患者の看護 3) 治療を受ける患者の看護 4) 日常生活への影響と援助 5 呼吸機能障害がある患者の事例展開 1) 慢性閉塞性肺疾患（慢性期）の患者の事例展開	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学「2」 呼吸器 医学書院

専門分野 成人看護学

分野科目名	専門分野 成人看護学	科目名	循環器疾患を持つ成人への看護
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2)		
実務経験	1) 看護師として附属病院 8 年 2) 看護師として附属病院 8 年		

設定理由

成人期における循環器疾患のある対象への看護をするために、症状の緩和と生活を整える看護の方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
循環器疾患をもつ患者の看護を展開できる	15	1 虚血性心疾患 2 弁膜症 3 心不全 4 不整脈 5 閉塞性動脈硬化症 上記疾患の 1) 主な症状に対する看護 2) 検査・処置を受ける患者の看護 3) 治療を受ける患者の看護 4) 日常生活への影響と援助 6 循環器機能障害がある患者の事例展開 1) 心筋梗塞（急性期～回復期）の患者の事例展開 2) 慢性心不全（慢性期）の患者の事例展開	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学「3」 循環器 医学書院

専門分野 成人看護学

分野科目名	専門分野 成人看護学	科目名	消化器疾患を持つ成人への看護
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師		
実務経験	看護師として附属病院 10 年		

設定理由

成人期における消化器疾患のある対象への看護をするために、症状の緩和と生活を整える看護の方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
消化器疾患をもつ患者の看護を展開できる	15	1 上部消化管腫瘍(食道癌, 胃癌) 2 下部消化管腫瘍(大腸癌, 結腸癌) 3 炎症性疾患(潰瘍性大腸炎・Crohn 病) 4 潰瘍性疾患(胃・十二指腸潰瘍) 5 胆石症 6 膵炎 7 肝炎 8 肝硬変 9 肝癌 上記疾患の 1) 主な症状に対する看護 2) 検査・処置を受ける患者の看護 3) 治療を受ける患者の看護 4) 日常生活への影響と援助 10 消化機能障害のある患者の事例展開 1) 肝硬変（慢性期）の患者の事例展開 2) すい臓がん（終末期）の患者の事例展開	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学「5」 消化器 医学書院

専門分野 成人看護学

分野科目名	専門分野 成人看護学	科目名	外科療法を受ける成人への看護
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2)		
実務経験	1) 看護師として附属病院 9 年 2) 看護師として附属病院 8 年		

設定理由

成人期にある外科的治療を受ける対象への看護をするために、健康の回復に向けた看護の方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
外科的手術を受ける患者の看護を展開できる	15	1 術前の看護 1) 手術療法の理解を促す援助 2) 術後合併症のリスクアセスメントと援助 3) 術前オリエンテーション 4) 不安のアセスメントと援助 5) ボディイメージの変容への援助 2 術中の看護 1) 手術方法による影響と援助 2) 手術体位による影響と援助 3) 麻酔による影響と援助 4) 安全管理 3 術後の管理 1) 生体反応 2) 術後の疼痛管理 3) 創傷管理 4) ドレーン管理 4 術後合併症と予防 1) 術後出血 2) 下肢静脈血栓、肺塞栓症・呼吸器合併症 3) 感染症 4) 廃用症候群 5 術後の機能障害や生活制限への看護 1) ボディイメージの受容への支援 2) 機能訓練 3) セルフケア 6 ストーマケア 7 外科的手術を受ける患者の事例展開 1) 胃がんの手術を受ける患者の事例展開 周術期にある患者の看護 2) 大腸がん・ストーマ造設の手術を受ける患者の事例展開 回復期にある患者の看護	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院

専門分野 成人看護学

分野科目名	専門分野 成人看護学	科目名	腎・泌尿器・女性生殖器の疾患を持つ成人への看護
単位・時間	1単位 15時間	対象学年・時期	2年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3)		
実務経験	1) 看護師として附属病院 14年 2) 看護師として附属病院 10年 3) 看護師として附属病院 17年、他病院 15年		

設定理由

成人期における腎・泌尿器・女性生殖器疾患のある対象への看護をするために、症状の緩和と生活を整える看護の方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
腎・泌尿器疾患をもつ患者の看護を展開できる 女性生殖器疾患をもつ患者の看護が理解できる	15	1 急性腎不全 2 慢性腎不全 3 腎・尿路結石 4 腫瘍(腎癌, 膀胱癌) 5 前立腺肥大 上記疾患の 1) 主な症状に対する看護 2) 検査・処置を受ける患者の看護 3) 治療を受ける患者の看護 4) 日常生活への影響と援助 6 慢性腎不全患者（透析療法期）の事例展開 7 子宮筋腫 8 子宮内膜症 9 卵巣囊腫 10 子宮体癌 11 子宮頸癌 12 卵巣癌 上記疾患の 1) 主な症状に対する看護 2) 検査・処置を受ける患者の看護 3) 治療を受ける患者の看護 4) 日常生活への影響と援助	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学「8」 腎・泌尿器 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学「9」 女性生殖器 医学書院

専門分野 成人看護学

分野科目名	専門分野 成人看護学	科目名	内分泌・代謝疾患を持つ成人への看護
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師		
実務経験	看護師として附属病院 16 年		

設定理由

成人期における内分泌疾患・代謝疾患のある対象への看護をするために、症状の緩和と生活を整える看護の方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
内分泌・代謝疾患をもつ患者の看護を展開できる	15	1 甲状腺機能亢進症 2 甲状腺機能低下症 3 糖尿病 上記疾患の 1) 主な症状に対する看護 2) 検査・処置を受ける患者の看護 3) 治療を受ける患者の看護 4) 日常生活への影響と援助 4 代謝機能障害がある患者の事例展開 1) 糖尿病（慢性期）の患者の事例展開	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学「6」 内分泌・代謝 医学書院

専門分野 成人看護学

分野科目名	専門分野 成人看護学	科目名	免疫・運動器疾患を持つ成人への看護
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3)		
実務経験	1) 看護師として附属病院 23 年、他病院 3 年 2) 看護師として附属病院 8 年 3) 看護師として附属病院 26 年		

設定理由

成人期における免疫・運動器疾患のある対象への看護をするために、症状の緩和と生活を整える看護の方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
免疫疾患をもつ患者の看護が理解できる 運動器疾患をもつ患者の看護を展開できる	15	1 全身性エリテマトーデス 2 関節リウマチ 上記疾患の 1) 主な症状に対する看護 2) 検査・処置を受ける患者の看護 3) 治療を受ける患者の看護 4) 日常生活への影響と援助 3 骨折(上肢・下肢) 4 椎間板ヘルニア 5 四肢切断後 上記疾患の 1) 主な症状に対する看護 2) 検査・処置を受ける患者の看護 3) 治療を受ける患者の看護 4) 日常生活への影響と援助 6 運動器障害がある患者の事例展開 1) アキレス腱断裂をした患者の事例展開 急性期～回復期の看護	講 義	試 験

テキスト

系統看護学講座 専門分野 成人看護学「10」 運動器 医学書院

系統看護学講座 専門分野 成人看護学「11」 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院

専門分野 成人看護学

分野科目名	専門分野 成人看護学	科目名	脳・神経・感覚器疾患を持つ成人への看護
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2)		
実務経験	1) 看護師として附属病院 25 年 2) 看護師として附属病院 23 年		

設定理由

成人期における脳・神経・感覚器疾患のある対象への看護をするために、症状の緩和と生活を整える看護の方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
脳・神経疾患をもつ患者の看護を展開できる 感覚器疾患をもつ患者の看護を展開でききる	15	1 脳血管障害 2 脳腫瘍 3 感染症(脳炎、髄膜炎) 4 硬膜下血腫 5 パーキンソン症候群 上記疾患の 1) 主な症状に対する看護 2) 検査・処置を受ける患者の看護 3) 治療を受ける患者の看護 4) 日常生活への影響と援助 6 脳・神経機能障害のある患者の事例展開 1) 脳梗塞（回復期）の患者の事例展開 7 中途視覚障害者 8 突発性難聴 9 メニエール病 10 口腔・咽頭腫瘍(舌癌, 咽頭癌, 喉頭癌) 11 感覚機能障害のある患者の事例展開 1) 咽頭がん（術前～回復期）の患者の事例展開	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学「7」 脳・神経 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学「13」 眼 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学「14」 耳鼻咽喉 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学「15」 歯・口腔 医学書院

専門分野 成人看護学

分野科目名	専門分野 成人看護学	科目名	がん看護
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2)		
実務経験	1) 看護師として附属病院 22 年 2) 看護師として附属病院 18 年		

設定理由

成人期にあるがん治療を受ける対象への看護を展開するために、症状の緩和と生活を整える看護の方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
がん患者への看護が展開できる	15	1 がん患者の理解 2 がん患者の治療と看護 1) 手術療法 2) 化学療法 3) 放射線療法 4) 集学的治療 3 がん患者の療養支援 4 がん罹患した患者の事例展開 1) 乳がんの患者の事例展開	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院
 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院

専門分野

老年看護学

専門分野 老年看護学

分野科目名	専門分野 老年看護学	科目名	高齢者の理解
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 16年		

設定理由

高齢者の加齢に伴う変化や取り巻く環境について捉えるところである。

老年期の特徴を踏まえた関わりをするために、老年期の特徴や健康と暮らしを学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
老年期にある対象の特徴と生活と健康課題が理解できる	30	<ol style="list-style-type: none"> 1 ライフサイクルからの老年期 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老年期の定義 2) 発達課題 3) 加齢と老化 2 加齢に伴う変化 3 高齢者の暮らし <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活様式 2) 家族形態と機能と家族支援 3) 社会状況の変化 4 高齢者の尊厳と権利擁護 5 高齢者における倫理 6 高齢者の健康課題 7 老年看護を語る 	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
 看護がみえる 対象の理解Ⅰ メディックメディア
 公衆衛生がみえる メディックメディア

専門分野 老年看護学

分野科目名	専門分野 老年看護学	科目名	高齢者の日常生活援助
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 16 年		

設定理由

高齢者の生活を整えるための方法を学ぶところである。

高齢者の個々に応じた生活が営めるよう看護するために、日常生活援助の基本的な方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
老年期の対象に応じた日常生活援助を展開できる	15	1 運動・休息・睡眠への援助 2 食の援助 3 排泄の援助 4 清潔の援助	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院

専門分野 老年看護学

分野科目名	専門分野 老年看護学	科目名	認知症高齢者の看護
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2)		
実務経験	1) 看護師として附属病院 22 年 2) 看護師として附属病院 9 年、他病院 5 年		

設定理由

認知症の高齢者について学ぶところである。

対象に応じた関わりができるように、認知症の知識と援助の方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
認知症の対象に看護を展開できる	15	1 認知症とは 2 認知機能の評価 3 予防的アプローチ 4 コミュニケーション方法 5 療養環境の調整 6 家族への支援とサポートシステム	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院

専門分野 老年看護学

分野科目名	専門分野 老年看護学	科目名	高齢者の治療から生活の再構築に向けた看護
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	2 年（後期）
方法	講義		
講師名	専任教員 1)		
実務経験	1) 看護師として附属病院 16 年		

設定理由

健康障害が生じている高齢者の経過に応じた看護を学ぶところである。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
治療を要する老年期の対象の看護を展開できる	30	大腿骨頸部骨折の高齢患者の事例展開 1 手術を受ける高齢者の事例展開 1) 手術を受ける高齢者の特徴 2) 術前・術後のマネジメント・援助 2 回復期の高齢者の看護 1) 回復期の高齢者の特徴 2) 新しい生活能力を獲得する必要がある高齢者の援助 3 退院調整と退院支援 1) 生活の場の移動と看護の継続 2) 多職種連携、チームアプローチ 3) 家族支援 4 腰椎圧迫骨折の高齢者の事例展開 1) 保存療法を受ける高齢者の看護 2) 生活の再構築に向けた看護 3) 退院調整と退院支援 (1) 生活の場の移動と看護の継続 (2) 多職種連携、チームアプローチ (3) 家族支援	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学「10」 運動器 医学書院
 看護がみえる 対象の理解 I メディックメディア

専門分野

小児看護学

専門分野 小児看護学

分野科目名	専門分野 小児看護学	科目名	子どもの理解
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 12年		

設定理由

小児各期にある子どもの特徴と取り巻く環境について捉えるところである。

それぞれの発達段階にある子どもに応じた看護のために基礎となる知識を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
小児期にある対象（子ども）の特徴と生活と健康課題を理解できる	30	<ol style="list-style-type: none"> 1 ライフサイクルからの小児期 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児期の定義 2) 発達課題と理論 3) 成長・発達 4) 成長・発達の原則 5) 成長・発達に影響する因子 2 小児各期の成長・発達・評価 <ol style="list-style-type: none"> 1) 形態的成長・発達 2) 機能的発達 3) 精神・運動機能発達 4) 心理・社会的発達 3 子どもと家族 4 子どもと社会 5 子どもの健康課題 6 子どもにおける倫理 7 小児看護を語る 	講 義	試 験

テキスト

系統看護学講座 専門分野 小児看護学「1」 小児看護概論・小児臨床看護総論 医学書院
 公衆衛生がみえる メディックメディア
 看護がみえる 対象の理解 I メディックメディア

専門分野 小児看護学

分野科目名	専門分野 小児看護学	科目名	子どもの発達に応じた支援
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2)		
実務経験	1) 看護師として附属病院 26 年 2) 看護師として附属病院 17 年		

設定理由

小児各期にある子どもの日常生活支援の方法を学ぶ。

子どもの基本的な生活習慣の確立に向けた支援と発達段階に応じた看護のために基本的な支援の方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
小児各期に応じた日常生活の支援を理解できる	15	1 新生児期の子どもへの支援 2 乳児期の子どもへの支援 3 幼児期の子どもへの支援 4 学童期の子どもへの支援 5 思春期の子どもへの支援 6 病気や診療・入院が子どもに及ぼす影響と看護 7 子どもの病気や診療・入院がきょうだい・家族に及ぼす影響と看護 8 病気に対する子どもへのアプローチ 1) インフォームド・アセント 2) プレパレーション 3) バイタルサイン測定	講 義	試 験

テキスト

系統看護学講座 専門分野 小児看護学「1」 小児看護概論・小児臨床看護総論 医学書院

専門分野 小児看護学

分野科目名	専門分野 小児看護学	科目名	子どもの健康障害
単位・時間	1単位 15時間	対象学年・時期	2年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師		
実務経験	医師として附属病院 18年、他病院 23年		

設定理由

小児特有の疾患の病態、治療、検査について学ぶ。

疾患をもつ子どもに応じた看護のために基礎的な知識を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
健康が障害された小児の疾病について理解できる	15	1 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 1) ダウン症候群 2 新生児・低出生体重児の疾患 1)高ビリルビン血症 2)呼吸窮迫症候群 3)未熟児網膜症 3 内分泌疾患 1)成長障害 2) I型糖尿病 4 免疫・アレルギー性疾患、膠原病 1)気管支喘息 2)食物アレルギー 5 感染症 1)麻疹 2)風疹 3)流行性耳下腺炎 4)水痘 5)髄膜炎 6)ロタウイルス 6 呼吸器疾患 1)クループ症候群 2)急性気管支炎・肺炎 7 循環器疾患 1)ファロー四徴症 2)川崎病 8 消化器疾患 1)口唇、口蓋裂 2)腸重積 9 血液・造血器疾患 1) 紫斑病 10 悪性新生物 1) 白血病 11 腎・泌尿器および生殖器疾患 1) ネフローゼ症候群 12 神経疾患 1)てんかん 2)熱性けいれん 3)脳性麻痺	講 義	試 験

テキスト

系統看護学講座 専門分野 小児看護学「2」 小児臨床看護各論 医学書院

専門分野 小児看護学

分野科目名	専門分野 小児看護学	科目名	子どもの健康レベルに応じた看護
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	2 年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3) 4)		
実務経験	1) 看護師として附属病院 17 年 2) 看護師として附属病院 7 年 3) 看護師として附属病院 4 年 4) 看護師として附属病院 12 年		

設定理由

健康が障害された子どもと家族への看護を学ぶ。

疾病や入院が子どもと家族に与える影響を考え、看護を展開するために援助方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
健康が障害された子どもと家族への看護が理解できる	30	1 急性症状のある子どもと家族への看護 1)2 歳の川崎病の子どもの事例展開 2)10 か月熱性けいれん・肺炎の子どもの事例展開 2 周術期にある子どもと家族への看護 1)8 歳の子どもの扁桃腺摘出術～退院までの事例展開 3 慢性的な疾患・障害がある子どもと家族への看護 1)14 歳の I 型糖尿病の子どもの事例展開 2)4 歳のネフローゼ症候群の子どもの事例展開 3)染色体異常の子どもの出生時～在宅医療まで 4 終末期にある子どもと家族への看護 1)10 歳の白血病の子どもの事例展開	講 義	試 験

テキスト

系統看護学講座 専門分野 小児看護学「2」 小児臨床看護各論 医学書院

専門分野

母性看護学

専門分野 母性看護学

分野科目名	専門分野 母性看護学	科目名	リプロダクティブヘルスケア
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（後期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 9 年		

設定理由

リプロダクティブヘルスケアは、女性の生涯を通じた健康の保持・増進・疾病予防を学ぶところである。

女性とその家族の健康を支えるために、リプロダクティブヘルスケアについて学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
リプロダクティブヘルスケアが理解できる	30	1 リプロダクティブヘルスに関する概念 2 リプロダクティブヘルスに関する動向 3 リプロダクティブヘルスに関する倫理 4 リプロダクティブヘルスに関する法や施策 5 リプロダクティブヘルスケア	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 母性看護学「1」 母性看護概論 医学書院
 看護がみえる 対象の理解 I メディックメディア
 公衆衛生がみえる メディックメディア

専門分野 母性看護学

分野科目名	専門分野 母性看護学	科目名	周産期の理解
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3) 4) 5)		
実務経験	1) 医師として附属病院 15 年、他病院 7 年 2) 医師として附属病院 10 年、他病院 10 年 3) 医師として附属病院 4 年、他病院 10 年 4) 医師として附属病院 2 年、他病院 9 年 5) 医師として他病院 4 年		

設定理由

周産期の理解は、妊娠期・分娩期・産褥期・胎児期および新生児期にある対象の特徴と経過について学ぶところである。

各期に応じた看護のために、正常な経過および逸脱の状態について学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
周産期にある対象の生理的変化と経過が理解できる	15	1 遺伝相談 2 不妊治療 3 妊娠期による母体の生理的変化と胎児の発育 4 分娩の経過に伴う身体的変化と胎児の状態 5 産褥期における褥婦の生理的変化 6 出生を境にした胎児から新生児への生理的変化および生存環境の変化への対応	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 母性看護学「2」 母性看護各論 医学書院

専門分野 母性看護学

分野科目名	専門分野 母性看護学	科目名	周産期の看護
単位・時間	2単位 45時間	対象学年・時期	2年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3) 4)		
実務経験	1) 助産師として附属病院 6年、他病院 3年 2) 助産師として附属病院 6年 3) 助産師として附属病院 7年 4) 助産師として附属病院 3年、他病院 14年		

設定理由

周産期の看護は、対象がより良い状態で経過するために、看護を学ぶところである。

ウェルネスの視点で看護を展開するために、看護の方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
ウェルネスの視点でのアセスメントと援助の方法が理解できる	45	1 対象理解の基盤となる概念 1) 母性、父性、親性 2) 母親役割、父親役割 3) 母子相互作用、愛着形成 4) 早期の母子接触 5) 家族の発達・機能 2 妊娠期における看護 3 分娩期における看護 4 産褥期における看護 5 新生児期における看護	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 母性看護学「2」 母性看護各論 医学書院

専門分野

精神看護学

専門分野 精神看護学

分野科目名	専門分野 精神看護学	科目名	こころの理解
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（後期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 14 年		

設定理由

人のこころのありようところを支える社会を学ぶところである。

看護の対象である人のこころを理解するために、さまざまな状況にある対象のこころのありようを学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
人のこころのありようところを支える社会を理解できる	30	1 こころのはたらき 2 こころのしくみ 3 こころの発達 4 こころの危機状況 5 現代社会とこころの健康 6 精神保健と法	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 精神看護学「1」 精神看護の基礎 医学書院

専門分野 精神看護学

分野科目名	専門分野 精神看護学	科目名	こころの状況に応じた生活支援
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師		
実務経験	看護師として附属病院 30 年		

設定理由

こころの状況に応じた対象の生活の支援の方法を学ぶところである。

対象に応じた看護をするために、こころの状況が日常生活に及ぼす影響と支援の方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
こころの状況に応じた生活の支援が理解できる	15	1 家族とこころの健康 2 暮らしの場とこころの健康 3 生活支援のための概念 1) レジリエンス 2) リカバリ（回復） 3) ストレングス（強み、力） 4) エンパワメント 4 セルフケアへの援助	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 精神看護学「1」 精神看護の基礎 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 精神看護学「2」 精神看護の展開 医学書院

専門分野 精神看護学

分野科目名	専門分野 精神看護学	科目名	こころの状況に応じた治療と看護
単位・時間	2単位 30時間	対象学年・時期	2年（後期）
方法	講義		
講師名	法人講師		
実務経験	看護師として附属病院14年、他病院2年		

設定理由

精神に障がいのある対象の経過に応じた治療と看護を学ぶところである。

対象に応じた看護を展開するために、既習の知識を基に看護の方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
こころの状況に応じた治療を受ける対象の治療と看護が展開できる	30	<ol style="list-style-type: none"> 1 安全な治療環境の提供 2 精神保健医療福祉に関する社会資源の活用と調整 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神科デイケア、精神科ナイトケア 2) 精神科訪問看護、訪問看護 3) 困難事例に関する行政との連携 3 精神障がいのある患者の事例展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 統合失調症の患者の事例展開 急性期にある陽性症状のある患者への看護 2) 統合失調症の患者の事例展開 慢性期にある陰性症状のある患者への看護 退院に向けての看護 3) 双極性障害のある患者への看護 4) 精神障がいのある患者の社会復帰への看護 	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 精神看護学「2」 精神看護の展開 医学書院
オレムのセルフケアモデル 事例を用いた看護過程の展開 ヌーベルヒロカワ

専門分野

看護の統合と実践

専門分野 看護の統合と実践

分野科目名	専門分野 看護の統合と実践	科目名	対象に合った日常生活を整える看護の展開
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	1 年（後期）
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 13 年		

設定理由

対象に応じた日常生活を整える看護の展開は、必要な既習の知識を統合して看護の展開を学ぶところである。

看護実践能力を高めるために、実践に活かす知識の活用方法とよりよい状態を目指した対象への看護の展開方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
既習の知識を統合して対象に応じた日常生活を整える看護の展開ができる	15	1 日常生活援助が必要な対象に応じた看護 1) 情報収集 2) アセスメント 3) 計画立案 4) 実施 5) リフレクション	講 義 実 習	OSCE

テキスト 既習のテキスト

専門分野 看護の統合と実践

分野科目名	専門分野 看護の統合と実践	科目名	対象の状態に応じた看護の展開
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	2 年（後期）
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 16 年		

設定理由

対象の状態に応じた看護の展開は、必要な既習の知識を統合し、看護の展開を学ぶところである。看護実践能力を高めるために、実践に活かす知識の活用方法とよりよい状態を目指した対象への看護の展開方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
既習の知識を統合して対象の状態に応じた看護の展開ができる。	15	1 疾病により症状がある患者に応じた看護 1) 情報収集 2) アセスメント 3) 計画立案 4) 実施 5) リフレクション	講 義 実 習	OSCE

テキスト 既習のテキスト

専門分野 看護の統合と実践

分野科目名	専門分野 看護の統合と実践	科目名	望ましい医療提供をするための看護の展開
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	3 年（後期）
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 12 年		

設定理由

望ましい医療提供をするための看護の展開は、必要な既習の知識を統合し、看護の展開を学ぶところである。

看護実践能力を高めるために、実践に活かす知識の活用方法とよりよい状態を目指した対象への看護の展開方法を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
既習の知識を統合して望ましい医療提供のための看護の展開ができる。	15	1 複数の患者に応じた看護 1) チームでのマネジメント 2) 組織としてのマネジメント 3) 自己のマネジメント 4) ケアのマネジメント	講 義 実 習	OSCE

テキスト 既習のテキスト

専門分野 看護の統合と実践

分野科目名	専門分野 看護の統合と実践	科目名	医療マネジメント
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	3 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3) 4) 5) 専任教員 6)		
実務経験	1) 医師として附属病院 17 年、他病院 28 年 2) 看護師として附属病院 44 年 3) 看護師として附属病院 36 年 4) 看護師として附属病院 37 年 5) 看護師として附属病院 30 年 6) 看護師として附属病院 21 年		

設定理由

医療マネジメントとは、急激に変化している保健・医療・福祉分野において「医療」と「生活」の両方の視点をもって全体をマネジメントすることである。

多様性、複雑性に対応した医療を提供するために、病院づくりを通して組織の中での看護の役割と看護の創造を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
病院づくりを通して医療における看護のマネジメントの知識が理解できる	30	1 看護マネジメントの概念 2 医療・看護の質指標 3 情報のマネジメント 4 保健医療の機能分化と連携 5 人材育成・活用看護業務の実践 6 病院づくりと多職種連携 1) 病院づくり 2) 多職種とのケースカンファレンス	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践「1」 看護管理 医学書院

専門分野 看護の統合と実践

分野科目名	専門分野 看護の統合と実践	科目名	医療安全
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	3 年（前期）
方法	講義		
講師名	法人講師 1) 2) 3) 専任教員 4)		
実務経験	1) 医師として附属病院 22 年、他病院 12 年 2) 看護師として附属 24 年 3) 看護師として附属病院 22 年 4) 看護師として附属病院 12 年		

設定理由

安全で質の高い医療、看護を提供するために、医療安全の基礎的知識を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
医療における事故防止について理解できる	30	1 医療安全とは 2 国の医療安全への取り組み 3 事故発生のメカニズムとリスクマネジメント 1) ヒューマンエラー 人間の特性 2) 事故分析 3) スイスチーズモデル 4) インシデントレポートの活用 5) 事故対策 6) ハインリッヒの法則 4 医療チームにおけるコミュニケーションと連携 5 医療安全における医療者と患者の協同の必要性 6 医療事故の分析と対策 1) 転倒・転落の防止 2) 誤薬の防止 3) 患者誤認の防止 4) 誤嚥・窒息の防止	講 義	試 験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践「2」 医療安全 医学書院
 医療安全ワークブック 医学書院

専門分野 看護の統合と実践

分野科目名	専門分野 看護の統合と実践	科目名	災害看護
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	3 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師 1) 2)		
実務経験	1) 看護師として他病院 36 年 2) 看護師として他病院 27 年		

設定理由

災害看護は、災害時における被災の場や被災者に必要な医療、看護を学ぶところである。災害の及ぼす生命や健康生活への被害を極力少なくするために、看護の知識、技術を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
災害看護に必要な知識、災害医療活動の特徴、看護の役割と機能を理解できる	15	<ol style="list-style-type: none"> 1 災害と災害医療・災害看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害の定義 2) 災害の分類 3) 災害看護の役割 4) 災害と法制 5) 災害の種類と健康障害 2 災害対応の原則 <ol style="list-style-type: none"> 1) 指揮と連携、安全、情報共有 2) トリアージ 3 活動現場別の災害看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院、救護所での対応 2) 避難所、仮設住宅における健康と生活支援 4 被災者特性に応じた災害看護 (こども、妊産婦、高齢者、障害者、精神障害者、慢性疾患患者、在留外国人) <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害とこころのケア 2) ストレス反応 3) 被災者、救護者のこころのケア 5 救急法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 適切な移送方法の判断と方法 2) 止血・包帯法 3) 骨折の手当て 	講 義	試 験

テキスト

系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践「3」 災害看護学・国際看護学 医学書院

専門分野 看護の統合と実践

分野科目名	専門分野 看護の統合と実践	科目名	国際看護
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	3 年（前期）
方法	演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 9 年		

設定理由

国際看護は、世界の人々の健康問題や世界共通の看護課題に取り組みを学ぶところである。

グローバルな視点を持ち、世界で起きている問題、健康に関する諸問題を知り、看護の役割を考えるために、基礎的知識を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
世界の課題と健康問題を知り、看護の役割を理解できる	15	<ol style="list-style-type: none"> 1 世界の課題と健康問題 2 グローバル化の広がりとグローバルヘルス <ol style="list-style-type: none"> 1) プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション 2) ミレニアム開発目標、持続可能な開発目標 3 国際協力のしくみ <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際機関の役割 2) 政府開発援助（ODA） 4 国際看護学とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際看護学の定義と目的 2) 国際看護学の対象 3) 国際協力と看護 5 異文化看護 6 開発途上国の現状、健康課題の理解と看護 	講 義	試 験

テキスト

系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践「3」 災害看護学・国際看護学 医学書院

臨地実習

臨地実習

分野科目名	臨地実習 基礎看護学	科目名	対象を知る実習
単位・時間	1 単位 45 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	実習		
講師名	専任教員 1) 2)		
実務経験	1) 看護師として附属病院 13 年 2) 看護師として附属病院 14 年		

実習目的

対象を理解し、看護を実践するための基礎となる知識・技術・態度を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 対象が理解できる 1) 看護の対象の特徴が理解できる 2 受け持った対象を説明できる 1) 受持ちの対象を理解するため方法がわかる。	45	1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。 2 病棟で対象を受け持ち、実習する。 3 看護師と行動を共にして実習する。 4 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを1日 30 分行う。 5 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。	実 習	パフォーマンス評価

臨地実習

分野科目名	臨地実習 基礎看護学	科目名	看護過程の展開実習
単位・時間	2 単位 90 時間	対象学年・時期	1 年（後期）
方法	実習		
講師名	専任教員 1) 2)		
実務経験	1) 看護師として附属病院 13 年 2) 看護師として附属病院 14 年		

実習目的

対象を理解し、根拠に基づいて看護を計画的に実践するための知識・技術・態度を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
<p>1 看護の対象が理解できる</p> <p>1) 日常生活の援助が必要な対象の特徴が理解できる</p> <p>2 根拠に基づいて看護を計画的に展開できる</p> <p>1) 受け持ちの対象が理解できる。</p> <p>2) 対象に応じた日常生活の援助を根拠に基づいて展開できる。</p>	90	<p>1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。</p> <p>2 病棟で日常生活の援助が必要な患者を受け持ち、看護過程を展開する。</p> <p>3 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを 1 日 30 分行う。</p> <p>4 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。</p>	実 習	パフォーマンス評価

臨地実習

分野科目名	臨地実習 地域・在宅看護論	科目名	地域で生活している人と支える人々を知る実習
単位・時間	2 単位 90 時間	対象学年・時期	2 年（後期）
方法	実習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 11 年		

実習目的

地域で生活している対象を理解し、健康の保持・増進、疾病予防のための知識・技術・態度を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
<p>1 地域で生活している対象を理解できる</p> <p>1) 地域で生活する看護を必要とする対象の特徴が理解できる</p> <p>2 対象の健康の保持・増進、疾病予防のための方法が理解できる</p> <p>1) 地域の人々と生活を支える人や機関が理解できる</p> <p>2) 健康の保持・増進のための支援の方法を理解できる</p>	90	<p>1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。</p> <p>2 保健福祉事務所では、かかわる職種から説明を受けて実習する。</p> <p>3 市町村保健センター、地域包括支援センターでは、かかわる職種から説明を受け、職員と行動を共にして実習する。</p> <p>4 特別養護老人ホームでは、職員と行動を共にして実習する。</p> <p>5 生活する人々を観察する。</p> <p>6 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを 1 日 30 分行う。</p>	実 習	パフォーマンス評価

臨地実習

分野科目名	臨地実習 地域・在宅看護論	科目名	地域での療養を支える実習
単位・時間	2 単位 90 時間	対象学年・時期	3 年（前期）
方法	実習		
講師名	専任教員		
実務経験	1) 看護師として附属病院 11 年		

実習目的

地域で療養が必要な対象を理解し、生活を支援するための知識・技術・態度を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
<p>1 地域で療養生活をする対象が理解できる。</p> <p>1) 地域で療養生活をする対象の特徴を理解できる。</p> <p>2 対象が療養生活を継続するために必要な援助・社会資源の活用方法や保健・医療・福祉の連携と調整が理解できる</p> <p>1) 対象の生活と健康上の問題、家族関係を理解する</p> <p>2) 対象の生活環境や生活能力に合わせた支援が理解できる</p>	45	<p>1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。</p> <p>2 訪問看護ステーションでは、地域で療養生活をする対象に、看護師とともに行動し必要な看護を考える。</p> <p>3 病院外来、人口透析室では、看護師と共に行動し、必要な看護を考える。</p> <p>4 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを 1 日 30 分行う。</p>	実 習	パフォーマンス評価

臨地実習

分野科目名	臨地実習 成人・老年看護学	科目名	地域の人々のいのちを まもる実習
単位・時間	2 単位 90 時間	対象学年・時期	3 年（全期）
方法	実習		
講師名	専任教員 1) 2)		
実務経験	1)看護師として附属病院 16 年 2)看護師として附属病院 16 年		

実習目的

循環器疾患をもつ対象を理解し、生命の維持と生活の調整のための知識・技術・態度を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
<p>1 循環器疾患をもつ対象が理解できる</p> <p>1) 循環器疾患をもつ対象の特徴が理解できる</p> <p>2 循環器疾患をもつ対象の様々な状況に応じた看護を展開できる</p> <p>1) 受け持ちの対象が理解できる</p> <p>2) 生命の維持と生活の調整のために、根拠に基づいて看護を実践できる。</p>	90	<p>1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。</p> <p>2 病棟で循環器疾患の対象を受け持ち、看護を展開する。</p> <p>3 救急外来で看護師と行動を共にして実習を行う。</p> <p>4 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを1日30分行う。</p> <p>5 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。</p>	実 習	パフォーマンス評価

臨地実習

分野科目名	臨地実習 成人・老年看護学	科目名	周術期看護実習
単位・時間	2 単位 90 時間	対象学年・時期	3 年（全期）
方法	実習		
講師名	専任教員 1) 2)		
実務経験	1)看護師として附属病院 16 年 2)看護師として附属病院 16 年		

実習目的

周術期にある対象を理解し、健康の回復のための知識・技術・態度を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 周術期にある対象を理解できる 1) 周術期にある対象の特徴が理解できる 2 より望ましい健康を取り戻すための周術期の看護を展開できる 1) 受持ちの対象が理解できる 2) 術前・術中・術後の各段階に応じて、根拠に基づいて回復を促す看護が実践できる	45	1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。 2 周術期の対象を受け持ち、看護を展開する。 3 HCU、手術室で看護師と行動を共にして実習を行う。 4 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを 1 日 30 分行う。 5 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。	実 習	パフォーマンス評価

臨地実習

分野科目名	臨地実習 成人・老年看護学	科目名	エンドオブライフケアを展開する実習
単位・時間	2 単位 90 時間	対象学年・時期	3 年（全期）
方法	実習		
講師名	専任教員 1) 2)		
実務経験	1)看護師として附属病院 16 年 2)看護師として附属病院 16 年		

実習目的

終末期にある対象を理解し、エンドオブライフケアを展開するための知識・技術・態度を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 終末期にある対象が理解できる 1) 終末期にある対象の特徴が理解できる 2 エンドオブライフケアの視点で対象に必要な看護を展開できる 1) 受け持ちの対象が理解できる 2) エンドオブライフケアの視点で根拠をもって看護が実践できる	90	1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。 2 病棟で終末期にある対象を受持ち、看護を展開する。 3 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを 1 日 30 分行う。 4 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。	実 習	パフォーマンス評価

※エンドオブライフケアとは、最期までその人の人生を輝かせるケアをいう。

臨地実習

分野科目名	臨地実習 老年看護学	科目名	人生の軌跡を支える実習
単位・時間	2 単位 90 時間	対象学年・時期	2 年（後期）
方法	実習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 16 年		

実習目的

老年期で健康障害のある対象を理解し、対象がその人らしく人生を統合するために必要な知識・技術・態度を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
<p>1 老年期で健康障害のある対象を理解できる</p> <p>1) 老年期で健康障害のある対象の特徴が理解できる</p> <p>2 その人らしく人生の統合に向かうことを支える看護を展開できる</p> <p>1) 受け持ちの対象が理解できる</p> <p>2) 対象の人生の統合に向けた看護の根拠をもって実践できる</p>	90	<p>1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。</p> <p>2 病棟で老年期で健康障害のある対象を受け持ち、看護過程を用いて看護を展開する。</p> <p>3 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを 1 日 30 分行う。</p> <p>4 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。</p>	実 習	パフォーマンス評価

※人生の軌跡とは、その人が歩んできた人生のみちのり、積み重ねてきた日々の記録をいう。

臨地実習

分野科目名	臨地実習 小児看護学	科目名	子どもらしく輝き続けることを支える実習
単位・時間	2 単位 90 時間	対象学年・時期	3 年（全期）
方法	実習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 12 年		

実習目的

小児各期の健康障害のある対象を理解し、成長・発達に応じた養護と健康の回復に向けた知識・技術・態度を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
<p>1 小児各期の健康障害のある対象を理解できる</p> <p>1) 小児期で健康障害のある対象の特徴が理解できる</p> <p>2 成長・発達の促進と健康の回復に向けた看護を展開できる</p> <p>1) 受け持ちの対象が理解できる</p> <p>2) 成長・発達の促進と健康の回復にむけた看護を根拠をもって実践できる</p>	90	<p>1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。</p> <p>2 病棟で健康障害のある子どもを受け持ち、看護を展開する。</p> <p>3 外来で看護師とともに行動し実習を行う。</p> <p>4 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを1日30分行う。</p> <p>5 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。</p>	実 習	パフォーマンス評価

臨地実習

分野科目名	臨地実習 母性看護学	科目名	新たないのちの誕生を支える実習
単位・時間	2 単位 90 時間	対象学年・時期	3 年（全期）
方法	実習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 9 年		

実習目的

周産期にある対象を理解し、ウェルネスの視点で対象の経過に応じた知識・技術・態度を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
<p>1 周産期の各期にある対象を理解し、周産期各期の看護が理解できる</p> <p>1) 周産期の各期にある対象の特徴がわかる</p> <p>2) 周産期の各期にある対象の特徴をふまえた看護がわかる</p> <p>2 対象のいのちを尊重し、対象に応じた周産期の正常な経過に向けた看護が理解できる</p> <p>1) 受け持ちの対象が理解できる。</p> <p>2) 2人のいのちを尊重した看護の根拠を基に理解できる</p>	90	<p>1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。</p> <p>2 病棟で周産期にある対象を受け持ち、ウェルネス志向で看護を展開する。</p> <p>3 外来、NICU で看護師と共に行動し実習を行う。</p> <p>4 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを 1 日 30 分行う。</p> <p>5 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。</p>	実 習	パフォーマンス評価

臨地実習

分野科目名	臨地実習 精神看護学	科目名	こころの健康と生活を支える実習
単位・時間	2 単位 90 時間	対象学年・時期	3 年（前期）
方法	実習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 16 年		

実習目的

精神障がいのある対象を理解し、生活の維持・向上のための知識・技術・態度を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
<p>1 精神障がいのある対象を理解できる</p> <p>1) 精神障がいのある対象の特徴を理解できる</p> <p>2 セルフケア理論を活用し、生活の維持・向上するための看護を展開できる</p> <p>1) かかわった対象を理解できる</p> <p>2) 生活の維持・向上に向けた視点で看護を実践できる</p>	90	<p>1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。</p> <p>2 精神障がいのある対象を受け持ち、看護を展開する。</p> <p>3 病棟、共同作業所、デイケアで対象とかかわる職種と行動を共にして実習を行う。</p> <p>4 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを1日30分行う。</p> <p>5 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。</p>	実 習	パフォーマンス評価

臨地実習

分野科目名	臨地実習 看護の実践と統合	科目名	看護師への未来を拓く実習
単位・時間	2 単位 90 時間	対象学年・時期	3 年（後期）
方法	実習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 16 年		

実習目的

看護師としての自覚と責任のある看護を実践するために、もてる力を最大限に発揮する力を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
<p>1 その人らしい生活を支えるために、対象の 24 時間の療養生活を理解できる</p> <p>1) 受け持ちの対象の 24 時間を通じた療養生活が理解できる</p> <p>2) 対象の療養生活を支えるための援助を主体的に実践できる</p> <p>2 看護の機能を最大限に発揮するために、看護の役割を自覚した行動がとれる</p> <p>1) 病院組織と多職種の機能と役割を理解できる</p> <p>2) 看護の役割を遂行する行動がとれる</p>	90	<p>1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。</p> <p>2 病棟で対象を受け持ち、看護を展開する。</p> <p>3 病棟で夜間実習を行う。</p> <p>4 看護部長、所属長、リーダー看護師から説明を受けて実習を行う。</p> <p>5 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを 1 日 30 分行う。</p> <p>6 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。</p>	実 習	パフォーマンス評価

※拓くとは、新たな道をひらくことをいう。